2019 年度前期　授業改善アンケート集計結果に対する意見
―全学共通教育研究センター―

全学共通教育研究センター長　　有田　英也

全学共通教育科目は、教養科目、外国語科目、スポーツ・ウエルネス科目、IT 科目、初年次向けリテラシー科目である WRD 科目、データサイエンス科目から構成されています。前期開講科目のうちアンケート実施対象科目は 175 科目あり、延べ 10,229 人が受講しています。このうちアンケート実施が必須とされる 113 科目のうち全科目でアンケートが実施され、延べ 6,086 人の回答を得ました。この場を借りて、協力いただいた受講生の皆さんに感謝します。また、貴重な授業時間を割いて授業改善のための資料を作ってくださった先生方にも御礼申し上げます。必須科目の実施率は 100%で、任意科目のそれは 93.6%、全体として 97.7%と高い数字です。授業改善のため、これからも多くの先生方に協力を呼びかけてゆきます。ただし、アンケート回答率は全体で 59.5%と、けっして高い水準ではありません。受講生の授業参加度を高めるための工夫が必要でしょう。

個々の科目の集計結果は Campus Square から自由に閲覧できます。ここでは全体を総覧します。まず、授業の満足度の指標となる、「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」の平均は、5 段階評価で 4.10 と高い水準にあります。これは大学全体の 4.11 よりやや劣り、昨年度後期の 4.12 に対しても微減ですが大学全体の講義科目の平均 4.01 を上回っています。12 個の設問のうち高得点を意味する 4.0 以上のものは 7 項目ありますが、一昨年度後期の 11 項目、昨年度後期の 9 項目に及ばず、昨年度前期の 7 項目と同じ水準になりました。授業のレベル設定や板書・スライドの見やすさについて、授業改善の努力を続けてゆきたいと思います。

個別項目と「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関係数、つまり評価 1 から 5 までの回答数の分布が似ているかどうかを確かめると、0.84 という高い相関を示しているのが「この分野への興味・関心が引き起こされた」という設問です。全学共通教育の目的は学部での学びの垣根を越えた幅広い教養を身につけること、よりよく生きるための課題に気づくことにあります。意欲ある学生の皆さんの評価を喜ぶとともに、授業の充実に努めてこられた教員の皆さんに重ねて謝意を表します。

課題もあります。本学の奨励するアクティブラーニングと関わる設問「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促した」が 3.56 にとどまり、2017 度後期の 3.65、昨年度前期の 3.52、昨年度後期の 3.61 とともに低迷気味です。科目によっては大教室での講義という不利な条件もあるのでしょうが、今後も教員の皆さんの促しと工夫を期待します。

スポーツ・ウエルネス実技科目のみの設問「十分に運動することができた」は、一昨年度および昨年前期の 4.73、昨年度後期の 4.76 を凌駕する 4.77 です。「あなたの身体の健康、体力、生活習慣を見直す機会となった」という「生活の質（QOL）」への気づきを尋

ねる設問が 4.63 と、一昨年度の 4.78 から昨年前期の 4.56、後期の 4.62 を経て回復傾向にあります。経過を見守ってゆきたいと思います。学生のスポーツ・ウエルネスに対する関心の高まりと、教員の皆さんの熱意とが、うまく出会うことを願います。

全学共通教育科目は、基本的な学問を体系的に学べるよう、また今日的な諸問題に学生みずから取り組む助けとなるよう多岐にわたって構成されています。その目標を端的に述べれば教養、知力、スキルあるいは気づきとなるでしょう。このアンケートをもとに、今後も学生の皆さんの興味・関心を引き起こす良質の授業を提供すべく努める所存です。

以上